

平成 16 年度老人保健事業推進費等補助金

『日本における「パーソン・センタード・ケア
(その人を中心とした介護)と DCM (痴呆介護マッピング) 法」
の研修・普及に関する研究事業』

報告書

社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

はじめに

平成 14 年度にスタートした、**Dementia Care Mapping** (痴呆ケアマッピング) 法の導入事業も 3 年が経とうとしている。思えば、初めて DCM 基礎コースを英国ブラッドフォード市の **Heaton Mount** 研修所で受講したのは、平成 14 (2002) 年 11 月のことであった。もうずいぶん長い間、この事業に関わってきたような感じがするが、考えてみればまだ 2 年半しかたっていないことに驚く。おそらく、何とか早く日本に導入しようと猛スピードで突っ走り、何年か分の仕事を短期間のうちに凝縮して行ってきたために、そのような錯覚を覚えたのだろう。

英国で初めて、DCM 基礎研修を受講した際、DCM 法が、パーソン・センタード・ケアの理念を学び、実践する上で、非常に役に立つツールであることを理解し、ぜひとも日本に導入したいと思った。そして、導入するための道のりは困難であろうが、それだけの苦勞をする価値のある仕事であると考えたのである。そして、いまや盟友とも言える **Dawn Brooker** 教授と会い、日本への導入の意義、計画を話し合ったことが、昨日のここのように思い出される。その時、私の提案した計画案は、初年度は、パーソン・センタード・ケアの理念を正しく知ってもらうために、一般介護者を対象とした、講演会を開催し、合わせて、DCM 法に関心をもってもらうために、認知症 (痴呆) 介護指導者たちとのワークショップを行うこと、2 年めは、基礎コースを日本で開催すること、3 年目は、日本人の手で基礎コースを開催することであった。「パーソン・センタード・ケアと DCM 法」の認定トレーナー (講師) になるためには、DCM 基礎資格、上級資格、評価者資格を取得した後、認定トレーナーの下で、4 回のトレーナー研修を行わなければならない。パーソン・センタード・ケアの理念を教育することのできる資格を与えるに当たって、彼らは、それほどまでの忍耐と訓練とを要求しているのである。従ってそこまでの難関をクリアして認定トレーナー資格を取得する人は世界的にも少なく、例えば、すでに 400 名近い基礎資格者を輩出しているオーストラリアにしても認定トレーナーはわずかに 2 名に過ぎない。残念ながら、平成 16 年度までに日本人の認定トレーナーを誕生させることはかなわなかったが、後一步のところまできている。他国で、国費を 5 年間ほど投入し、導入を進めるのが一般的であることを考慮すれば、実質 2 年半で、ここまで到達したことは画期的であると言えよう。

また、日本で教育を受け、DCM 基礎資格を取得した 58 名も着実に、認知症 (痴呆) ケア現場での質の向上に向けた取り組みを始めている。その一端は、報告書に盛り込んだ。今や、リーダーである私や、公式パートナーである認知症介護研究・研修大府センターがリードしていくというより、大府の地より飛び立った資格者全員が、日本の認知症 (痴呆) ケアの質を高めるという自覚と

覚悟が必要である。幸い、自主的な交流会・勉強会・研究会ができ、相互交流も活発になっている。

今まで、私は、なによりも、理念や考え方を正確に伝えることに重きを置いてきた。したがって、研修に用いられるマニュアル（テキスト）、講義で使用するスライド、グループワークで使用する配布物などが何を意図して作られたものか、そこで何を学んで欲しいのか、その意味を翻訳者である私自身が、正確に理解するために、英国の Dawn Brooker 教授, Claire Surr 氏と頻りに連絡を取って納得するまで議論を重ねてきた。この作業は、まだ続いている。これから、パーソン・センタード・ケアの理念を正確に理解していただくための研修と資格取得者のフォローに尽力していきたい。

なお、今年度は、センターの常勤を離れての活動となった。不安は多く、苦勞も多かったが、当初の計画通り実行できたことに安堵している。しかし、この事業は、私一人で遂行できたわけではなく、多くの方たちの協力なしではできなかった。特に、リフレッシュセミナー開催に際し、全面的に協力して頂いた、京都の加瀬文子さん、事業全般で私を支えて下さった、藤本事務部長、天草（加藤）さん、二瓶さん、日比野さん、中川経子さんにこの場を借りて感謝したい。

平成 17 年 3 月

認知症介護研究・研修大府センター
客員研究員 水野 裕

目 次

1. 平成16年度事業報告

- 1) 国際アルツハイマー病協会国際総会でのワークショップ・・・ 1
- 2) リフレッシュセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 3) DCM 国際代表者会議(Bradford)・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
- 4) DCM 国際総会 (Warrington) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 5) 第3回 DCM 基礎コース実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
- 6) 研究委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
- 7) DCM 研修後のマップパー育成のための取り組み・・・・・・・・91
 - (1) DCM 研修終了後のマップパーの現況と課題：
日比野 千恵子 (国立長寿医療センター、エバリュエーターマップパー)
 - (2) DCM マップパー交流会・研修会：
日比野 千恵子 (国立長寿医療センター、エバリュエーターマップパー)
村田 康子 (アドバンスマップパー)
中西 誠司 (ベーシックマップパー)
- 8) DCM データーの信頼性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
～ポール・エドワード氏とのマッピングから学んだこと～
日比野 千恵子 (国立長寿医療センター、エバリュエーターマップパー)
- 9) 平成15年度 DCM 基礎資格取得者の活動・・・・・・・・・・・・111
(学会報告・取り組みなど)
- 10) 平成15年度16年度 DCM 基礎資格取得者一覧・・・・・・・・・・132

2. 資料